

成法寺遺跡第7次 (SH91-7) 一般公開資料

平成3年8月25日 (日)

調査地 大阪府八尾市清水町2丁目 市立成法中学校内

調査期間 平成3年8月1日～

調査面積 690m²

調査機関 (財)八尾市文化財調査研究会

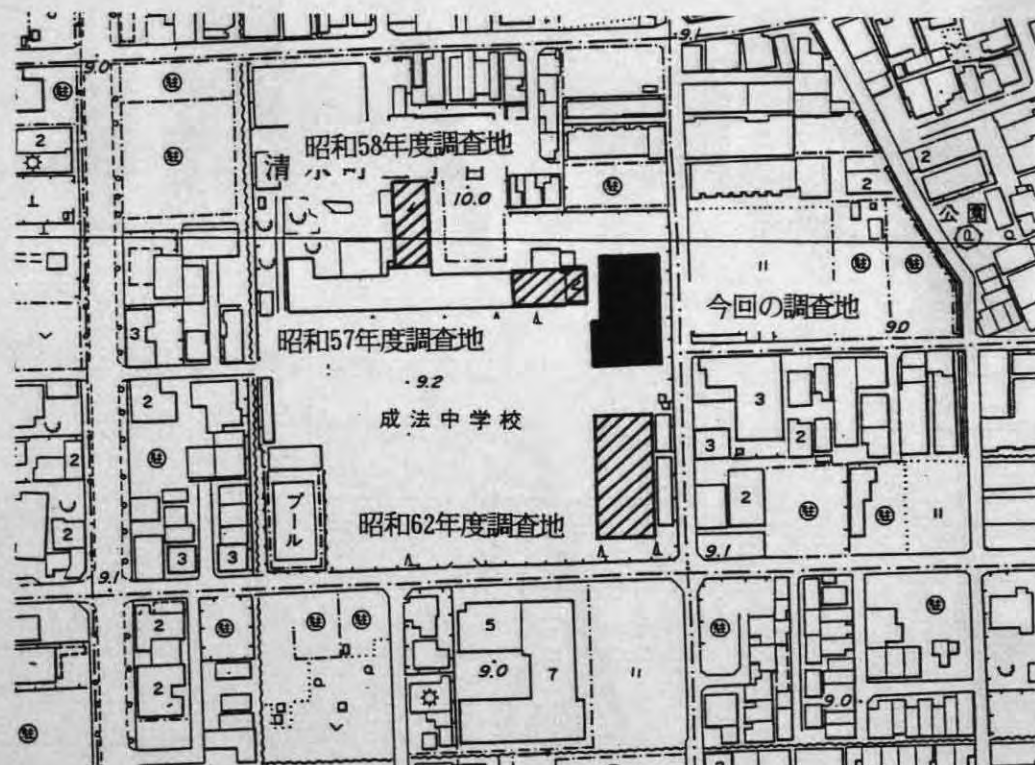
●はじめに

成法寺遺跡は、八尾市の中央部西に位置しており、現在の行政区画では光南町・清水町・南本町・高美町・松山町・明美町・陽光園一帯がその範囲になっています。当遺跡は、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地しており、北側で東郷遺跡、東側で小阪合遺跡、南側で矢作遺跡に接しています。

当遺跡は、昭和56年に、八尾市教育委員会が光南町1丁目29番で実施した試掘調査により確認された遺跡で、以降八尾市教育委員会・大阪府教育委員会・当調査研究会により、発掘調査が行われています。その結果、弥生時代中期～中世にわたる遺跡であることが知られています。

今回の調査は、市立成法中学校のプール建設に伴うもので、当調査研究会が平成3年8月1日から発掘調査を行っており、現在も継続中であります。

成法中学校内では、これまでに3回の発掘調査が行われており、古墳時代前期～鎌倉時代の遺構・遺物が見つかっています。



●調査概要

調査地は南北に分かれており、北区・南区として調査を進めています。現在は地表下約1.7mの奈良時代I期の生活面(第3次面)を調査中です。南区では、この面の約10cm上で奈良時代II期の生活面(第2次面)、その約20cm上で中世の生活面(第1次面)を確認しました。

◆第1次面

南区で、南西-北東方向の溝が多数見つかりました。ほぼ平行に並んでおり、農耕に関する溝と考えられます。

◆第2次面

奈良時代の井戸1基・溝5条が見つかりました。

・井戸 (SE1)

南区の南東部で見つかりました。方形横板組の井戸で、深さは約80cmあります。長さ約1.0m・幅15~25cm・厚さ1~4cmの板を方形に組んだものです。下から4段目までが残っており、下から2段目以上が井籠(せいろ)組と呼ばれる方法で組まれています。底には3~5cm位の石が約10cmの厚さに敷かれていました。内部からは奈良時代の須恵器・土師器などの土器の他、ひょうたんが出土しています。

・溝 (SD1~5)

北東-南西方向のもので、ほぼ平行に並んでいます。

◆第3次面

奈良時代の掘立柱建物1棟・溝が見つかりました。

・掘立柱建物 (SB1)

北区の東部で見つかりました。建物の西側部分で、一辺3.4m以上×3.0m以上の規模と考えられます。他にも柱穴が見つかり、数棟の建物が建っていたものと考えられます。

・溝

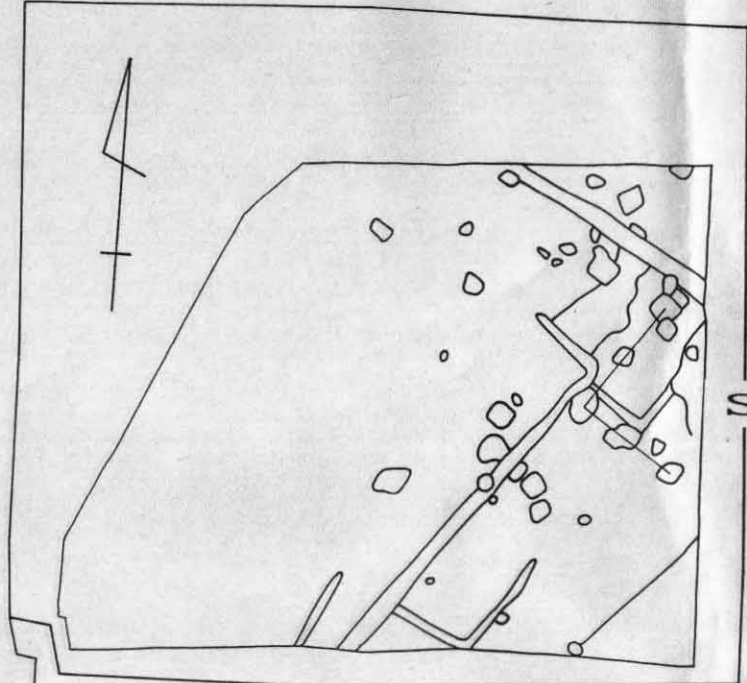
北東-南西方向のものと、これに直交する北西-南東方向のものがあります。またL字状に屈曲するものも見られます。

●まとめ

現在までの調査で、奈良時代・中世の遺構が見つかっています。

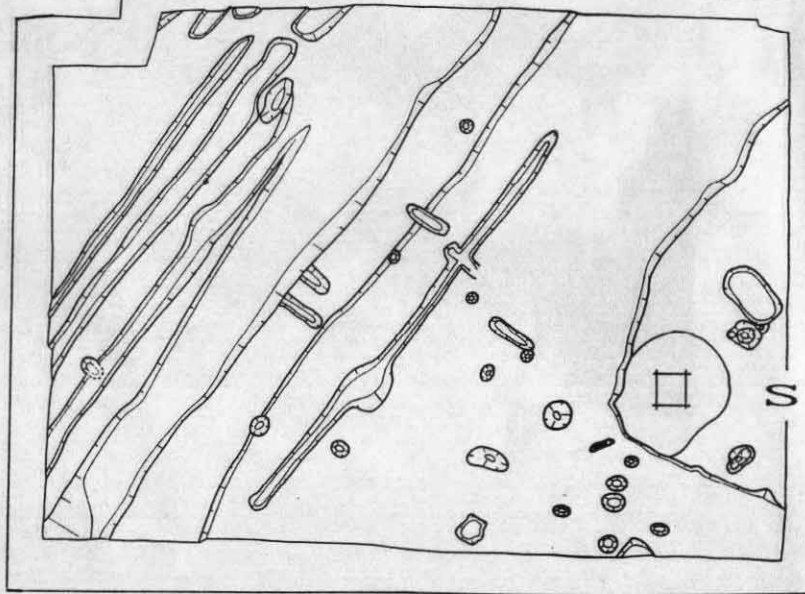
奈良時代の掘立柱建物は、当調査地の南側でも見つかり、建物の方向も一致しています。今回の調査で奈良時代の生活域が北側に広がることわかりました。

奈良時代
I期



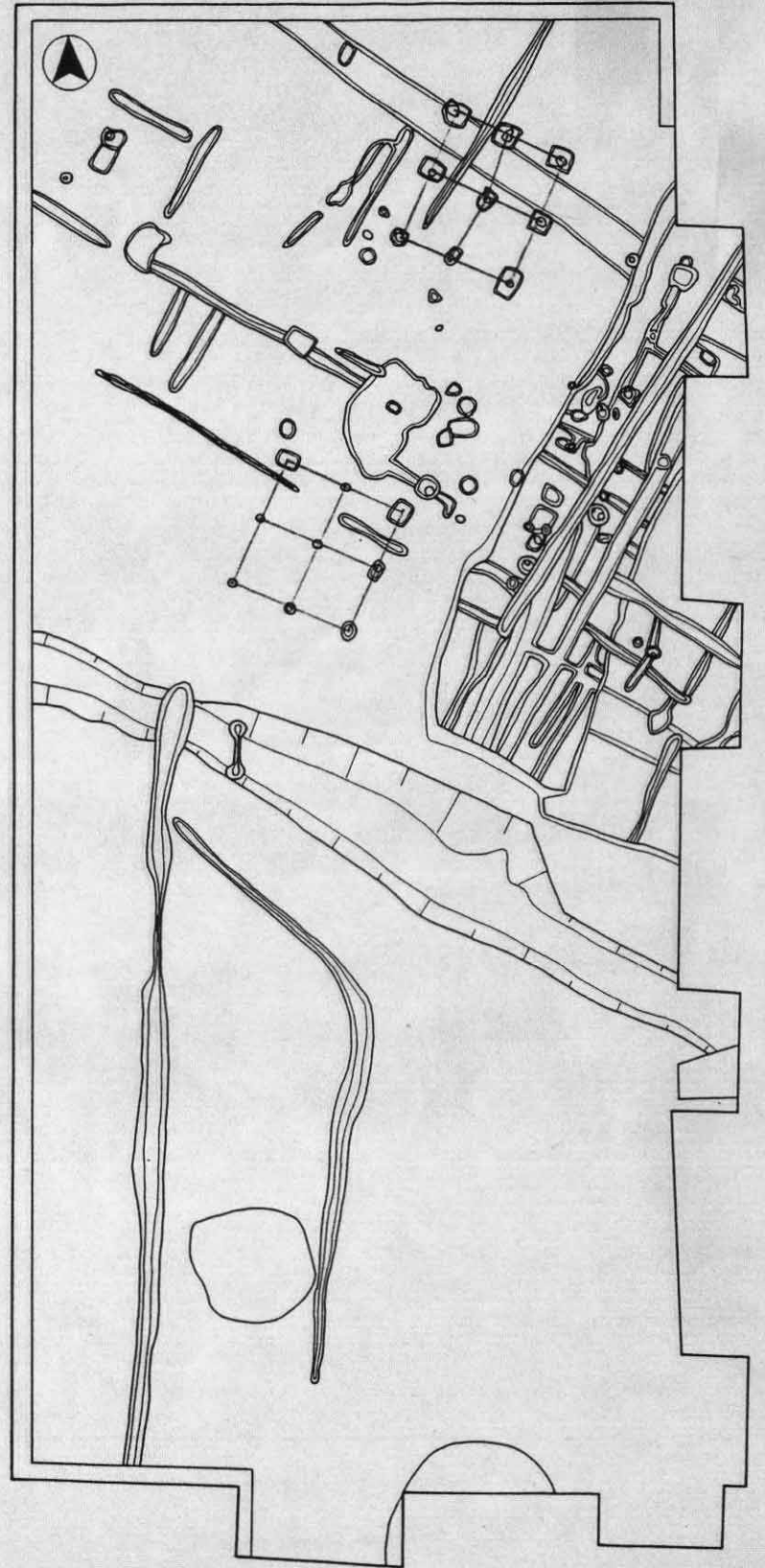
SB 1

奈良時代
II期



SE 1

遺構平面図



昭和62年度調査地